



沖縄県キッズトライアスロン大会

選手向け説明資料

スポーツくじ

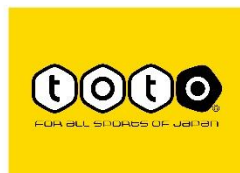


本大会は、スポーツ振興くじ助成金を受けて開催されます。

大会概要

大会名称	第1回沖縄県キッズトライアスロン大会 (英名: Okinawa kids Triathlon)
開催日	2018年6月16日(土)
主催	(一社) 沖縄県トライアスロン連合
主管	(一社) 沖縄県トライアスロン連合
後援(予定)	那覇市、(一社) 那覇市観光協会、NPO法人那覇市体育協会、沖縄タイムス社、公益財団法人日本トライアスロン連合
コース場所	<p>(1-2年生)</p> <p>スイム: うみそら公園 辻側ビーチ (50m) 1周回 バイク: うみそら公園 高架下駐車場エリア (1.7Km) 1周回 ラン: うみそら公園 ダイビングプールサイド (500m) 1周回</p> <p>(3-4年生)</p> <p>スイム: うみそら公園 辻側ビーチ (100m) 2周回 バイク: うみそら公園 高架下駐車場エリア (5.1Km) 3周回 ラン: うみそら公園 ダイビングプールサイド (1km) 2周回</p> <p>(5-6年生)</p> <p>スイム: うみそら公園 辻側ビーチ (150m) 3周回 バイク: うみそら公園 高架下駐車場エリア (8.5Km) 5周回 ラン: うみそら公園 ダイビングプールサイド (2Km) 4周回</p> <p>※バイクコースに関して、コースが狭いため追い越し禁止区間があります。</p>
募集人員	個人: 120人(最大240人)
大会役員	大会会長 宮城 直久 (一社) 沖縄県トライアスロン連合 会長 審判長 大城 一也 (一社) 沖縄県トライアスロン連合 理事長 技術委員長 渡嘉敷唯夫 (一社) 沖縄県トライアスロン連合 総務委員 救護部長 濱里 明 (一社) 沖縄県トライアスロン連合 理事 総務部長 森 豊 (一社) 沖縄県トライアスロン連合 事務局長
大会事務局	沖縄県キッズトライアスロン大会事務局 〒900-0026 沖縄県那覇市奥武山51-2 沖縄県体協スポーツ会館504 (一社) 沖縄県トライアスロン連合内 電話番号: 098-978-1963 当日はサイクルスポーツ090-8294-3255

スポーツくじ



本大会は、スポーツ振興くじ助成金を受けて開催されます。

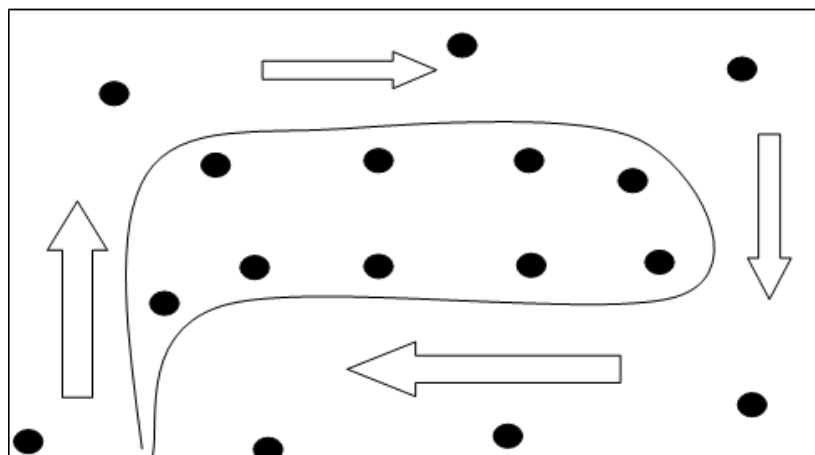


距離	地点	Start	TOP	F
選手受付	高架下大会本部	6:30		7:30
試泳	辻ビーチ	6:40		7:25
開会式	高架下大会本部	7:30		7:45
1-2年生	スタート確認	7:45		7:55
50m	辻ビーチ 防護ネット内	8:00	8:05	8:10
1.7km	バイク		8:05	8:20
500m	ラン		8:10	8:30
3-4年生	スタート確認		8:15	8:25
100m	辻ビーチ 防護ネット内	8:30	8:35	8:40
5.1km	バイク		8:35	8:50
1km	ラン		8:40	9:00
5-6年生	スタート確認		8:45	8:55
150m	辻ビーチ 防護ネット内	9:10	9:15	9:20
8.5km	バイク		9:15	9:40
2km	ラン		9:30	10:00
表彰式		10:30		

※3-4年生以降に関しては、スイム会場クリアー後、選手の試泳の時間とする
 ※スイム会場は、なるべく早く一般利用ができるようにしたいので前倒しで進めます。

コース概要

スイムコース(1周 50m)



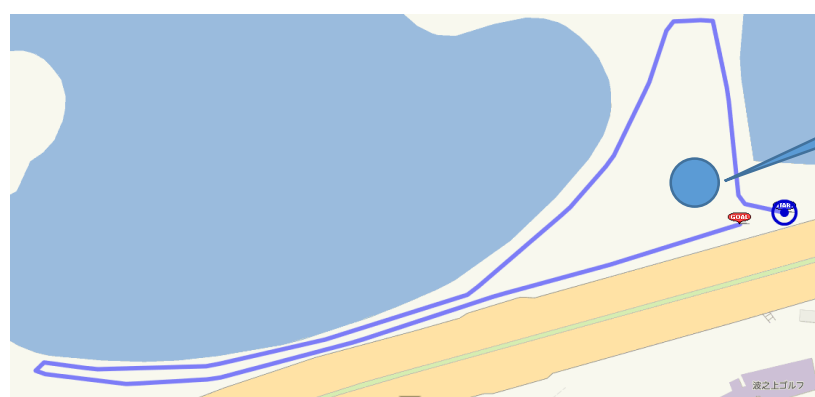
砂浜側

バイクコース(1周 約1.7km)



給水ポイント1

ランコース(1周 約500m)



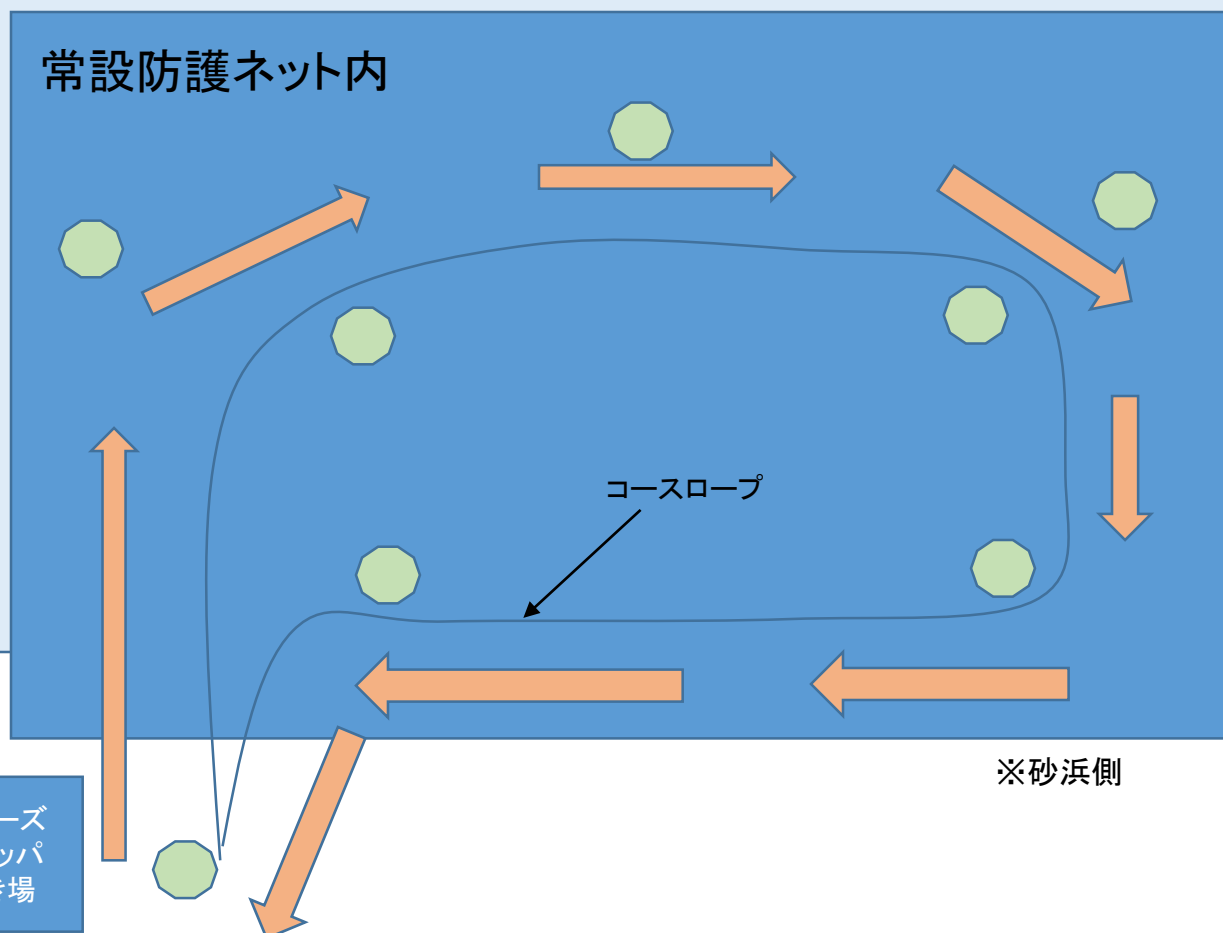
給水ポイント2

スイムコース

うみそら公園内 辻側ビーチ

50m

常設防護ネット内



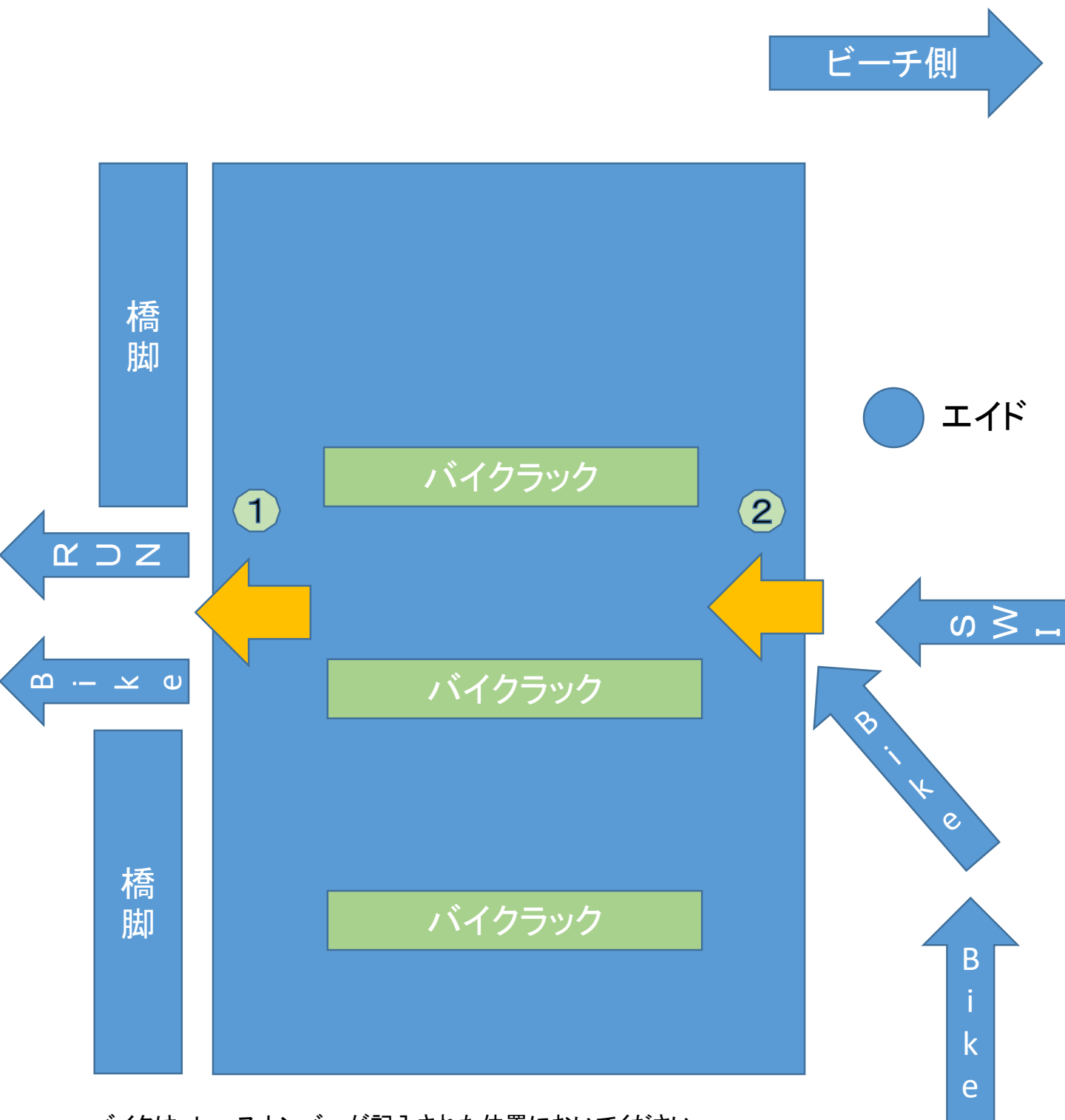
シューズ
スリッパ
置き場

※砂浜側



- ・受付時に手の甲にレースナンバーを記入してください
- ・スイムコース 1周 約50m
 - 1-2年生 1周回
 - 2-3年生 2周回
 - 5-6年生 3周回
- ※3-4年生以上は、砂浜に上がり再度コースへ入る。
- ・審判・救護・補助員の指示に従うこと
- ・砂浜には石などがあるため、トラジッションまでスリッパ、シューズ利用可能
- ・ラッシュガード推奨
- ・ビート板、プルブイ着用可
- ・エイドステーション以外の補助、支援は禁止されています。

トラジッションエリア



- ・バイクは、レースナンバーが記入された位置においてください。
- ・バイク固定に必要なひもは、エリア内に準備しておりますのでご利用ください
- ・ヘルメットをしっかり着用してからバイクコースへ入ってください。
- ・バイクを止めてから、ヘルメットを外してください。
- ・整理整頓に努めてください。

エイドステーション

水のみの提供となります。

利用後は、紙コップをゴミ箱へ投入してください

※全競技終了まで選手(保護者)以外エリア内に立ち入らないように

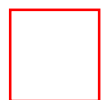
※盗難防止のため、基本はゼッケンで確認、引き取りは全競技終了後



・バイクコース 1周 1.7km

※1-2年生 1周回 2-3年生 3周回 5-6年生 5周回

※3-4年生以上は、トラジッション前で周回コースへ入る



・減速・追い越し禁止エリア

危険エリアのため追い越し禁止となります

・乗車可能ライン、降車ラインがありますので従ってください

・緊急時には、一時停止の指示をする場合があります

その場から原則動かないでください

・追い抜く場合は、声替えを実施してください

・段差などがあります。安全に通過できる速度で走行してください

・エイドステーション以外の補助、支援は禁止されています。

・高架橋中央部は救急車が通る可能性があります(バイクコース上)

Runコース



- ・ランコース 1周 500m
- 1-2年生 1周回
- 2-3年生 2周回
- 5-6年生 4周回



- ※3-4年生以上は、Finish前で周回コースへ入る。
- ・緊急時には、一時停止の指示をする場合があります
その場から原則動かないでください



- ・追い抜く場合は、声替えを実施してください
- ・段差などがあります。安全に通過できる速度で走ってください
- ・エイドステーション
水のための提供となります。
利用後は、紙コップをゴミ箱へ投入してください。
- ・エイドステーション以外の補助、支援は禁止されています。

※一番海側は、一般の人や車が通過する可能性あるのでスペースをあけてください。

注意事項

1. 荒天時の開催可否については、沖縄県トライアスロン連合のWebサイト、FBページにて6:00頃発表します
※天候により競技種目、距離等を変更して実施する場合があります。
2. 熱中症などの対策は、しっかり行ってください。
※保護者の皆様へ しっかりと選手の様子をご確認ください。
※審判、補助員の判断により、競技の中止をさせる場合があります。
3. 用品等の管理は、しっかり行ってください。盗難などについては、大会側では一切責任をおいせん
4. 大会で加入している保険は、傷害保険のみとなります。熱中症等は対象外となります。
5. 周回数は、各自チェックをお願いします。
※バイク競技などは、トップチューブにシール等でチェックするなど対策もよいと思います。

緊急時に備えて

1. 連絡体制について審判・役員が無線連絡を取っております。
2. 審判、役員が、AED、酢(スイム会場)をもっております
※AEDは各部門及び部門へ配置します(リュックタイプ)
3. 事故ある場合は、2次被害が出ないように まずは、安全確保に努めることを意識してください
4. 事故の連絡については、レースナンバー、場所、意識の有無を連絡してください
5. 緊急時、救急車は以下の①、②、③場所からコース内に入ります。
誘導を役員にて実施する予定です。ご協力お願い致します
6. 会場には、救急救命士、看護師がおります



□ルールのあらまし

- 1 ルールの主題は、フェアプレー精神、公正で安全な競技、自分で守る健康と安全、そして一般良識である。
- 2 完走するために、コースを知り、そこに適用されるルールと交通規則を守る。
- 3 ドーピングは、すべてのオリンピック競技と同様に禁止。カゼ薬や栄養剤にも注意。
- 4 ドラフトゾーンやトランジション・スペースなど「競技スペース」を守る。特別ルールを除き、他の競技スペースには入れない。
- 5 競技者の資格は、JTU加盟団体に登録して取得する。日本学生トライアスロン連合へは直接登録。

□アスリートの心得

- 1 大会は予測できないことの連続である。波や風、暑さ寒さ、観客や車の飛び出し、見えなくぼみ。危険を察知し、適切な判断で競技する。
- 2 日頃の練習と健康管理。早めの水分補給。マイペース。リタイアの勇気を持つ。

□一般交通から学ぶ

- 1 競技は車の運転と同じ＝競技者は運転手。審判員は警察官。大会上訴委員会は裁判所である。前方注意。車間距離とキープレフト。追越し車線。悪路や渋滞での減速。徐行と加速、ゆずりあいの精神で安全運転。
- 2 危険走行への警笛。追越しは、後方確認、合図、車線変更で一気に。左折の合図で確認し左車線に戻る。
- 3 違反での停止命令と罰則。事故の届け出。裁判での事情説明。保険の適用。ケガ人発見での救助活動。大会と同じである。

□練習中の注意

- 1 ヘルメットは必ずかぶる。
- 2 練習中の事故をなくすために、並んで走らない。信号は絶対を守る。
- 3 競技用と一般の自転車スピードの違いが、運転手を迷わせ、事故の原因となる。

□ウェアと用具

- 1 スイムでは、スイムキャップ、ゴーグルそしてウェットスーツを着用。バイクでは、規定のヘルメットと用具。ランではシューズを着用。仮装は適当でない。
- 2 レースナンバーは、四隅を留める。全面が見えるよう気を配る。折り曲げ、変造は禁止。ナンバーベルト使用では、レースナンバーが極端に下にならないよう配慮。
- 3 サングラスは、透明度の高いものがよい。トンネル内、雨天時の視力低下に注意。

□スムーズな競技とリタイア

- 1 危険・妨害行為は禁止。相手の優先コースを判断し、スムーズで安全な流れを守る。
- 2 リタイアは、スタッフに伝え、大会本部にも連絡する。

□スイム(水泳)

- 1 コースブイの外側を、他泳者とぶつからないように泳ぐ。ブイにつかまって小休止ができる。ブイをつかんでの泳ぎは禁止。
- 2 救助の合図は、競技を停止し「片手を頭の上で振り、声を出して救助を求める」。水上では救助に時間がかかることを忘れない。
- 3 ウェットスーツは推奨される。低温や波のあるときは着用義務となる。厚さ5ミリ以内、特殊加工は禁止。日本選手権では、水温20度以上で安定しているとき着用禁止。

□トランジションエリア

- 1 用具を交換する、競技コースの一部。エリア内は乗車禁止。ペダル片足走行も禁止。
- 2 ヘルメットのストラップは、ラックからバイクを外す前にしっかりと締める。フィニッシュ後は、バイクを掛けてからストラップを外す。
- 3 前輪の先端が、「乗車ラインを越えてから乗る」「降車ラインを越える前に降りる」。

□バイク(自転車)

- 1 バイクは体に合ったもの、ドロップバーが基本。バイクフレームはクラシックタイプが基準となる方向性。日本選手権やエリート部門では、エアロバーが、ブレーキレバーの先端をつないだ線を越えないものと規定。一般にも尖った先端は改善される方向にある。
- 2 乗車して競技することが基本。押す・持ち上げる・担ぐも許可。後続のじゃまにならないよう注意する。
- 3 規定のヘルメットを深くかぶり、ストラップをあごにかかるように締める。
- 4 規制されたコースでも、交通規則を守る。表示板、コーン、大会フタッフ、警察官の指示に従い競技する。
- 5 追い越しは、後ろを確認し、前走者の右側から。センター寄りの走者には注意を与える。不安があれば「一声掛けて追い越す」と効果的。
- 8 ドラフティング走行・集団走行・併走は禁止。特別レースでのみ許可。
- 9 近づきすぎたり並んでいると、ストップアンドゴー・ルール(SGルール)が適用される。「警告シグナル→レースナンバーのコール→ストップ指示」を受けたら、安全確認後、左端に止まる。降車してバイクを両手で持ち上げる。審判の「ゴー」の合図でレースを再開。タイムペナルティーも併用して適用される。

<バイク追越しの決まり>

- 1 安全に素早く追い越せると判断したら、後方確認、右手を挙げ、右側から追い越しに入る。センターラインは越えない。
- 2 追い越したら、再度後ろを確認。左手で合図し、キープレフト走行に戻る。
- 3 追い越し中は、《追い抜く意志を持って、前進している》ように見えなければいけない。ピタリと接近し、静止しているように見えると、規定タイム内でも警告を受ける。
- 4 前輪先端が、先行する前輪の先端よりも前に出たときに「追い越した」と見なす。
- 5 追い越されたら、すぐ抜き返したり、背後に付いてはいけない。後退しているように見えなければ注意を受ける。15秒以内に後方5mまで下がる。

□ラン(ランニング)

- 1 車に気をつけてキープレフトで走る。マイペースで、一休みもできる。
- 2 追越しは前走者の右側から。一声掛けると安心。
- 3 最後は、フィニッシュラインを走り抜く。エリートの意図的な同着は失格。同伴／伴走フィニッシュは、事前に許可された大会で、規定により認められる。
- 4 総合フィニッシュでは、サングラスをはずす。

□エイドステーション

- 1 エイドステーションでは、スピードを抑えて補給を受ける。左手で合図しスタッフにお願いする。
- 2 スタッフは、止まって渡し、走らない。競技者が注意して受け取る。
- 3 エイドステーション以外での支援は禁止。

□ペナルティー

- 1 違反や危険が予想されるときは、注意(短音の連続／口頭)を受ける。
- 2 注意に従わないと警告が出る。「警告音:短音2回の連続。イエローカード／フラッグ。レースナンバーのコール」による。
- 3 ドラフティング違反以外でも競技停止指示を受ける。ランやトランジションで「ストップ!」や「手をあげての合図」があったら止まる。指示を受け、再スタート。ボトルの不当投棄やレースナンバーの乱れでも適用される。
- 4 失格の宣告は、「警告音:長音の連続。レッドカード提示／フラッグを振る。レースナンバーをコールする」のいずれかによる。宣告なしでも失格がありえる。
- 5 競技中に失格を出されても、状況がよくなれば続けて競技できる。罰則が免除されるものではないが、レース後、審判長に事情説明することができる。
- 6 ペナルティーの最終裁定は、審判長が行い、「公式掲示板」で告知する。

□抗議と上訴

- 1 抗議は、競技者か代理人が、審判長に口頭で行う。裁定に納得できないときは、書面で抗議する。ただし、ドラフティング、危険行為、スポーツマン精神に反する言動の判定には抗議できない。
- 2 抗議できる時間は、記録について30分以内。他競技者、役員、運営について、フィニッシュ後60分以内。競技コースは、スタート24時間以上前に行う。
- 3 上訴は、審判長裁定に再考を求めるために行う。上訴者は、預託金を納め書面を提出する。大会上訴委員会の聴聞会で説明し、裁定を受ける。預託金は、上訴が受け入れられたら返される。裁定に不服ならば、理事会や総会に上訴することができる。
- 4 注意や警告を受けたら、終了直後に審判長への状況説明をすることができる。自らのルール違反についても同様とする。

□審判員(マーシャル)

- 1 競技者がルールを忘れてしまいそうになったとき、審判員はルール違反を出さないように水先案内人になろうとする。競技者の自覚と自己管理、そして審判員の相互協力が良いレースをつくる。
- 2 “審判員の審判は競技者”である。気づいたことは、大会を管理する競技団体に報告する。

□ボランティア・スタッフ

- 1 大会はボランティアが支えている。不慣れなためにうまくいかないことがあるかもしれない。それでもニコリ、「ありがとう」といえたら、声援はもっと大きくなるに違いない。
- 2 「来年もまた来てください」といわれるアスリートになってほしい。審判員も同じことである。

□大会の成功と継続のために

- 1 大会では、運営も審判も難しい。〈大会を楽しむ権利と運営に協力する義務〉。シーズンが終わって稲刈りのときにボトルが出てきたら、大会は続かない。
- 2 “競技者の思い”を主催者に伝える方法を明確にし、大会の改善につなげたい。競技者と主催者がたがいに納得し、観客も楽しめる大会としたい。